

# ¡Hola, amigos!

第076号

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、私達の近況をお知らせする長い手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は毎週、日本時間の金曜朝03:00時から07:00時の間に実施します。

臨時休刊の場合は、なるべくその前の週にお知らせします。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のは順次削除します。

では、今週号へどうぞ。 2005年09月02日 カァディスにてR y N

---

## ☆今週号のトップヘジャンプ

---

現在有効なバック・ナンバーは075号(08月26日)、074号(08月19日)

073号(08月12日)の三週分です。各週のトップにあるボタンからどうぞ。

---



**\*今週号\*** No. 076 (2005年・第36週) 09月02日更新

## 「ラウルがやってきた」の巻

皆さんこんにちは。日本は新学期ですね。

ここでは9月15日が学年の開始だそうです。散歩の途中でよく寄るデパートでは新学年の準備セールが盛んです。教科書などは、今買っても支払いは11月でイイからと買う気をあおっているようですが、売り場はガラガラ。

親も子もまだ夏の終わりを楽しむことで手一杯なのでしょう。ついこの間までの夏の衣料品バーゲンのフロアーには確実に普段より多くの客がいたのに。

去年どこかの店で「学校が始まる前に教科書を買いましょう」という張り紙を見ました。そして、学校が始まって「数日後」、今度は教科書を買う行列を見ました。

土壇場になるまで教科書なんか買わないということか、とりあえず学校が始まって先生によく聞いてからにしようと言うのか？ どうせ買わなくちゃならないなら、店がすいているうちに買えばいいのにと思いましたねー。教科書無料配布の州もあるらしいですがアンダルシアはまだ有料。しかも決して安くはないようです。

私たちが子供の頃は、日本でも教科書は買っていましたが、町の本屋で買ってくるのではなく、学校でまとめて買ったものを各自に有料配布してましたね。このようにそれぞれ親が町の本屋で個々に買うとなると、生徒の持ち物に統一が取れるのかどうか心配になります？ それともバラつくほど多くの種類がないのか？

私たちにとってもこの時期は新年度。スペイン・リーグの開幕です。テレビ番組の中で唯一言葉のハンディキャップなしに楽しめるのはフットボール観戦。そして、私たちには力強い味方があります。フットボール教科書ともいえるガイドブック。



前にも紹介しましたが、コレがそのガイドブックの最新版。私たちもこの本が既に四冊目、即ちスペイン・リーグの観戦も四年目に入ることになります。

この本は年々改良されていて、段々内容が充実してきました。この手の本の中ではコレがベスト・セラーらしいですが、それも十分領けるほど各種データ満載です。

ゲームそのものは説明抜きで楽しめますが、解説などは全く分からず、実況放送も精々選手の名前を聞き分けられる程度ですから、この教科書は貴重な存在です。

5月末、日本から帰ってくると、一部リーグでは29日の最終戦を待たずに既にバルセロナの優勝が決まっていました。しかし、二部リーグは6月19日の最終戦迄、もつれにもつれた末、地元カアディスCF (Club de Fútbol) の優勝で幕を閉じました。

カアディスCFは優勝と同時に一部リーグへの昇格切符を手に入れたのです。一部リーグは全部で20チーム、そのうち下位3チームが二部リーグの上位3チームと入れ替わるのです。カアディスCFの熱烈サポーター達は勿論のこと、他チーム最員の者も、コレで一部リーグの各チーム・各選手を地元のスタジアムで見れるわけで大喜びの筈。私たちもその仲間です。少なくとも向こう一年は大いに楽しみ。



そして、そのカアディスCFのホームでの開幕戦は、いきなり、かのリアル・マドリ  
ードとの対決になりました。サッカー好きの市民は大興奮の筈。

ところが肝心のエスタディオの改装は遅々としてはかどっていないらしい。開幕試合  
を明日に控えた27日の午後、エスタディオの様子を見ようと思って買い物方々カメ  
ラを持って散歩に出ました。そして、偶然、上の写真の場面に出くわしたのです。

この写真には写っていませんが、メイン・ストリートの両側に異常なくらい人があふ  
れていました。カメラを持った人も大勢。ナニかの行事かな、と思いました。

その時、旧市街の方からひとときわ高くクラクションを吹き鳴らして一団の車が通り過  
ぎて行きました。良くある結婚式のお祝い風景です。こんなことの為にこんな大勢の  
人が集まるのは、誰か有名人の結婚式かな？ それにしても随分物見高い人達だ、と  
半ば呆れていました。

ところが、また騒々しいクラクションです。今度は反対側、隣の町のほうからです。  
そして2台のパトカーが先導、後ろには機動隊が乗るような警備車輛までついてこの  
バスが近づいてきました。皆いっせいにカメラを構えています。



このときになって私たちもハッと気がつきました。ソウだ今日は試合の前日、レアル・マドリードの選手が到着したんだ。と思うまもなくバスは私たちの前を通過しました。ロベルト・カルロスが見えた、とNもやや興奮気味。カナリのミーハーです。このお金持ちチームがこの近くで泊まるんなら、もう、ウチの近くの四つ星、ホテル・プラヤ・ビクトリアしかありません。行ってみようよ、とまたミーハー。

ホテル前の広場はこの通り。私たちが着いたときは、もう選手はバスからホテル内に移動した後で既に人は散り始めていましたが、それでもまだ広場は埋まっています。右手の金網は別のホテルの工事のためのものですが、左のほうに見えるのはホテル前の警備用に急遽置いたものらしい。朝通った時はこんなフェンスなかったのです。

左上隅のバルコニーのある部屋がホテルの一部です。警備車輛の向こうがエントランス。大勢のオマワリさんが立っています。数分前には、ラウールが、ジダンが、ベッカムが、カシーヤスがここでバスから降りてきたのでしょうか。それを一目見ようというのがこの群集。テレビで成田での熱烈歓迎振りを見ましたが、カアディスでの試合は始めてとあってスペインでもこの通り。ミーハーに国籍ナシ。



そして28日、日曜日。開幕試合当日です。スタジアムの周りにはカアディスCFのチーム・カラー黄色で埋まりました。左手にあるバルなんか外壁まで黄色、その名も「バル・ゴール」。店内は黄色のカミセタ(Tシャツ)で一杯です。



スタンドは右も左も、もっとマッ黄色。街ではレアル・マドリードのカミセタを着た勇気あるサポーター達もちらほら見かけましたがこういう安い席にはいません。



開始一時間前。この白枠の手前はエスタディオ隣接の広場ですが、ここにいる人達は今日の切符を買えなかった人達。でもこうやって試合が終わるまでここからスタンドの人達の熱狂をみて観戦の興奮を共有しようと言うのか？ 言わば熱狂の二次感染。



エスタディオの内外が試合の始まる何時間も前からこんな風に興奮に包まれるという状態ですから警察もピリピリ。都合よくエスタディオの裏は市警察。普段はあまり見かけないバン・タイプの警備車輛を総動員して警戒に当たります。その数10台。初めての一部リーグの試合で不祥事、なんて何がナンでも押さえ込もうというカマエ。



こちらは隣地のビルの屋上からちゃっかりロハ観戦の面々。ひよっとしたらここもセルベサー一杯分くらいの入場料を取っているかも……。そういえばこの周りの住宅に最近 SE VENDE = 売ります、の広告が増えたみたいです。タダで一部リーグの試合を見れるようになった今が売り時と見たか？

私たちが楽しみにしていた試合実況は残念ながら有料テレビの局に放映権を買われてしまい、今回はテレビ観戦はできませんでした。収容人員たった二万人のエスタディオでは切符を買うのも至難の業。多分カナリの席はファン・クラブなどに年間券で買われてしまっていて、窓口販売の割り当て枚数はごく少ないのだと思います。

この日の朝エスタディオの裏の道を歩いていたらダフ屋が寄ってきて「90ユーロ」と囁きました。晩酌ビーノ30本分なんて冗談じゃネーヤ、それに、レアル・マドリード戦なんてゼニ出して見れるか！ とコレは口にはせず。

実況は見れませんでした。フットボール・ダイジェストとでも言いましょうか、ゴルフ・ア・ゴール(Gol a gol)と言う番組が日曜22時から始まります。全試合のサワリを見せる上、進行中のものも随時挟んでくれるので私たちのお気に入りです。

結局カアディスは1対2で敗れましたが、まあ初陣としては良かったのではないかと思います。何しろレアル・マドリードの主力選手一人か二人分で全員の給料が出てしまうような金力に差があるチームですから、仕方ありません。とにかく1ゴール



をねじ込んだことで緒戦としてはヨシとしましょう。

レアル・マドリードの2点目は久々に見るラウールの、いかにも「らしい」、タイミングのいいゴールでした。さすが、と言うべきか。キーパーも棒立ち。脱帽。それにしても、これからの一シーズン、カアディスは生き残りをかけた厳しい試練の一年になるでしょう。折角昇格したのに一年で消えてゆくチームは多いですからね。せめて次のアウェーでの対戦ではレアル・マドリードに一矢を報いて、カネだけじゃねーんだよ、と言うところを見せて欲しい。カアディスががんばれ。 **Viva Cádiz.\*\*\***

---

## 「オリーブ油ナマ食再び」の巻

---

またか、とお思いでしょうが、今度はちょっと違います。前はウマイ旨いと言う話に終始しましたが今回はどうすれば旨いのを作れるかと言うところまで踏み込んでみましょう。前の話以来、オリーブ油の生食に挑戦してみましたか？

ソんなのは聞く前からヤッテライ、と言う方も、自分で作るとこまではナカナカと思います。どうぞ、コレをヒントに更に新しい味に挑んでください。

また、油をナマで食べるなんて、とおっしゃるアナタ、食は冒険ですゾ。勇気を持って未知のおいしさを味わってください。

どうも、食べる事になると、我ながらオオゲサになっていけません。反省。

自作のきっかけは、友人(日本のですヨ)Y君が教えてくれたアホエン・オイルなるもの。コレはテレビでも放映されたそうですからご覧になった方もおいでと思います。

以下はその友人のメールの受け売りですが、その後の私たちの各種生食オイル作成のベースになったものなので、紹介します。

\*

材料：良質のオリーブ油100CC、ニンニク2片。

ニンニクを細かく刻み耐熱容器にオリーブ油とともに入れる。耐熱容器が楽に入る大きさの鍋で湯を沸かし、沸騰したら火から下ろす。この鍋にオリーブ油とニンニクの入った耐熱容器を入れる。要するに湯煎なんですけど耐熱容器を入れる前に鍋を火から

おろしてしまう。お湯が常温に戻ったらオリーブ油を濾して取り出したニンニクは炒め物などに使う。そしてオリーブ油は勿論ナマ食。

要点は以上ですが大事な点はニンニクの入ったオリーブ油を100度以上にしないことだそうです。ニンニクが持つアリシンと言う成分が100度以下の温度で熱することによりアホエンというものになるらしい。

その友人によると、このアホエンは肝機能改善、中性脂肪低下、糖尿病の予防・改善さらには脳の老化防止にも効果があると放送では言っていたそうです。私たちは効能にはあまり関心はなく、とにかく旨きゃイイ、ですから味は請合います。

ウチでは200CCずつ作っています。勿論ニンニクも倍量。ニンニクの量はお好みで適宜増減すればいいと思いますが、上記の定量ではニンニクの匂いの嫌いな方でもそれほど抵抗を感じない位ソフトなものに仕上がります。



さて、このオリーブ油勢揃いは、今、ウチの戸棚に収まっているもの。

右から、前記アホエン・オイル。2番目、生姜醤油入り、作りたて。3番目、レモン風味。4番目、バジル風味+醤油。5番目、シナモン入り。左端、バジル風味、これも作りたて。このうち市販のままのはレモン風味だけ。

さて、作り方。アホエン・オイルは前記の通りきわめて手軽且つ失敗なくできます。以下分量は全てオリーブ油200CCを基準とします。また全てに共通ですが、ネバならぬ、は一切ありません、色々試して自分に合う味を作ってください。

2番目の、生姜醤油。マズ生姜を下ろして絞ります。この絞り汁大匙一杯と醤油適量をオリーブ油に入れます。それだけ。用途にもよりますが、この瓶は醤油50CCです。うちでは主としてサラダ・ドレッシングとして使います。コレじゃしょっぱいと言う方は油の一割位から初めて少しずつ増やしてみればよいと思います。

3番目、レモン風味は市販品のままですからはしょりますが、そのうち自製してみようと思っています。レモンの皮を白皮が残らないように剥いて乾燥させたものを前記のアホエンと同じようにしたらいいかな、と思っているんですが・・・。

コレも醤油とあわせてサラダにゲー。パスタにも・・・。

4番目も市販のバジル風味ですが、バジルのクセがちょっときついので、醤油を加えてサラダ用に・・・。更にレモン風味のオイルを加えるとバジルのクセが緩和されてぐっと良くなります。醤油の量はうちでは2割位。

5番目、シナモン。もともとの瓶は市販のものですが中身はうちで作ったもの。シナモンの皮をくるくる巻いたもの売ってますね。コレを4～5センチ、使う耐熱容器の大きさしだいで適当に切って、前記アホエン・オイルの作り方と同じにします。コレはパンにつけて食べるのがベスト・マッチ。特に全粒粉のパンやフランス・パンには最適。パンを少しあぶってからのほうが更に香ばしいでしょう。

最後、左端のバジル風味。コレも瓶は市販のものですが、中身は自家製。乾燥バジルのあまり細かくないものを、200CCのオイルに大匙一杯ぐらい入れて、コレもアホエン・オイルと同じように湯煎です。細かくないものを、と言ったのはできた後の処理、バジルの葉を濾し取るのがやり易いため。オイルにバジルの葉のかけらが入っても気にならなければ細かく砕いた物を使っても一向に構いません。

この濾し取った葉も捨てずに炒め物などの風味付けに最適です。オイルのほうはなんといってもパスタに一番。醤油少々をあわせてサラダにも勿論。

\*

いかがですか、別にどうと言う難しいことはありません。要はオリーブ油のナマ食に

興味がわくか否か、それを美味しいと感じられるか否かに尽きます。そしてオイルそのものが美味しい良質のものを使うこと。旨いマズイの判断は千差万別。パンにバターはつき物ですが、スペインではソウでもありません。パンにオリーブ油こそ主流なのだと思います。どちらも美味しいと思いますが、バターよりは良質オリーブ油のほうが健康的であることは確かじゃないでしょうか？

そうそう、アホエンは美容にも良いという「説」もあるようです。脳の老化防止、平たく言えばボケ防止に効く、というのもあくまで「説」ですからね、「説」。\*\*\*

---

## 「エスタディオ改装」の巻

---

またまた、サッカーの話題で、サッカー嫌いの方には申し訳ないですが、サッカーという競技そのものについてではありませんから、お許してください。

私たちがカアディスへ引っ越してきたのは去年10月末のことでしたが、そのとき既にこの改装工事は始まっていました。勿論そのときはシーズン真っ最中で、カアディスCF (Club de Fútbol) は常に二部リーグの上位にとどまって頑張っていました。

今期はひよっとするとひよっとするかも知れないという期待感十分の活躍です。改装と言っても何しろシーズン中ですから二週間に一度はゲームがあるので工事はやりにくいでしょう。とにかく作業はずっと続けられているようでした。

そして、既にお話したようにカアディスCFの優勝、一部リーグ昇格という両手に花でシーズンが終わったのです。昇格が決まったのは6月19日、そして次期シーズンが始まるのは8月27・28日の土日。二ヶ月余りしかありません。

この二ヶ月を「シカナイ」と言うか「モアル」と言うべきかは迷うところですが、私達には直感的に「シカナイ」と思えました。私達が日本から帰ってきたとき、エントランスが工事中だったので困ったことをお話しましたね。

その時の写真憶えてますか？ その工事の手始めは地上階の、上から見て一番右の家の庭の改装から始まったんですが、その小さな庭の工事は私達が日本に行く前既に始まっていたのに、日本にいた二ヶ月間には殆ど進捗はなかったのです。



この写真は私たちが一時帰国する前、三月の初めに取ったものですが新しいスタンドは見た目では殆ど出来上がったように見えます。



こちらは試合の前日、8月27日。クレーンは全てなくなりましたがスタンドの後ろのガラス壁の工事穴はまだ塞いでありません。まだ中に仕事が残っている証拠。こんなところがほかにもまだ何箇所もありました。試合はアシタだよ、大丈夫かなー？



駅側から見たエスタディオ。言わばよそ行きの顔。右の信号機の向こうに見える工事穴さえなければ堂々の完成と言いたいところですが、それは夜目・遠目。



この通り、まだミキサー車から工事穴へコンクリートを送ったりしています。



そして、勝手口へ回って覗き込むと中はこんな具合。この時点から試合開始まで丸一日。観客の入場までは24時間ありません。さっきコンクリートを送っていたのは青い椅子席の向こう。ホントに大丈夫なんかいなと余計な心配をしたくなります。場内全体でまだどのくらいのゴミがあるのか？ 未完の工事はもうどうしようもないとしても、せめてゴミ処理だけでも終わっておかないと観客が入ることもできないじゃないですか。コレまでにどういう進行表に沿ってやってきたのか？ 果たして進行表または予定表なんてあったのか？ そこが大いなる疑問です。

日本で何か大きなイベントが計画されると、必ずアト何日という電光掲示がいろんなところに出ますね。そして主催者も請負業者も進行表をにらんで毎日進捗状況をチェックしているはず。この部分の工事はいつまで、この係員の人選はいつまでに、という調子。期日までには絶対間に合わせる。それが私たち日本人のごく普通の発想だと思いますが、どうもこの国ではそういうことはハヤラないらしい。

とにかく「私は」一生懸命(とは思えないけど)やった、それで間に合わなくても「私が」悪いんじゃない、と皆が考えていたら気楽です。恐ろしくもありますがネ。



その、恐ろしい一面。古い観覧席の一部。この下に時々行く中程度のスーパーがあります。その日、そのスーパーの出入り口近くの歩道上に鉄柵が並べてあり歩行者が通れないようにしてありました。別に道路工事や下水工事をしている風でもなし、ナンでかなと、不審に思ってあたりをキョロキョロ。特に変わったところはありません。

何の気なしに真上を見て思わずギョっとしました。スタンドの下面はこの通り。ここからコンクリート片がボロボロ歩道に落ちる。多分この上に新たに椅子を取り付ける作業が原因だったのでしょう。少なくともコレだけは既に落ちた。満員の観客が入る「明日」は危険だから下の歩道をふさいでおけばいいや、という考えですね。ネットでもかけてとりあえず破片落下の危険は避けようという発想はないのだろうか。この上に満員の観客が乗って、勝った負けたで地団駄ふんだらポロポロどころではすまないかも知れない、そしてそれは「明日」だけのことではないですけどねー。今まで駅に行く最短距離のこの下を何も気付かず通っていたんだけど、それこそ知らぬがホトケ。これからは遠巻きによけて通ろう。そしてこの上に乗ることもやめよう。もしダフ屋が30ユーロなんて破格の値を囁いてくれてもネ・・・。





この六ヶ所並んでいる穴、ナンだと思いますか？ スペイン語を、またはスペインの事をご存知の方はハハンとお思いでしょうが、これ入場券売り場なんです。

TAQUILLAS とかいてありますね、それが切符売り場と言うことですが、料金表やどのチームとの対戦かとか一切表示されていません。素っ気無いことこの上なし。

だから、客は並んで待つて一人一人自分の番が来ると席の選択から始まって、そっちならいくら、あっちならいくらと窓口係員と色々と相談するようです。多分その相談すら既にフットボール観戦の楽しみのうちなのかも知れません。でも、極超短気のRには到底我慢できません。それはスペイン語でのやり取りができるか否かの問題ではな

いんです。電車の切符もですが何かの表示を「眼」で見て確認したい。

例えば、売り場の上の壁に料金ごとに色分けしたスタジアムの大きな略図でも掲げて、赤のAゾーンの席ならいくら、青のBゾーンならいくらと表示すれば、行列のシッポのほうの人からでも一目瞭然、自分の番が来るまでにはフトコロと相談して席も決めてお金も用意できようと言うもの。そうすれば長蛇の列も少しは解消できるかも知れない。でも、それでは窓口で色々相談する「楽しみ」はなくなる！ それにあら

かじめ自分の払うべき料金を揃えて用意するなんて事をするわけモないか。

それにしても、この窓口、パチンコの景品交換の穴に似てると思いませんか？\*\*\*